

異 変

桑原紀子

庭の小さな榎の葉に、笹の葉の形をした緑色の幼虫を見つけました。トゲトゲの2本のピンクの触角が目立ちます。体長は2センチ位。7月の終りに、赤星ゴマダラ蝶がこの榎に産卵していたのですが、幼虫を見たのは初めてです。

赤星ゴマダラ蝶は奄美地方にいる南国の蝶なのに、ここ数年多摩地区でも目撃されています。実は台湾産のを飼育して放した人がいて、一気に増えたとのこと。私が初めてみたのは去年の夏でした。ゴマダラ蝶に似ているけど、後ろ羽に赤い丸い模様がズラリと並んで派手なので、一体これは何だろう？

と、びっくりしたものです。この一年で、目撃情報が沢山入り、鶴川でも見かける蝶になりました。環境への適応力のあるタフな蝶のようです。

それにしても、去年の秋には、長崎アゲハという大型の南国蝶が庭の柚子に産卵して、羽化し、やはり南国蝶のツマグロヒョウモンは今や庭にスミレがあれば、幼虫をどこでも

見かけるようになっていきます。蝶だけ見ても、こんなに顔ぶれが代わってきているので、生き物全てを見ると、多摩丘陵の自然に大きな変化が起きていると思われそうです。



私が能ヶ谷に移り住んだ3 1年前の周りの自然を思い出して見ました。西緑地の下の道は、オオムラサキの通り道で、縄張り行動か、道をパトロールする雄のオオムラサキとよく出会いました。樹液には、オオムラサキ、ゴマダラ蝶、カブト、クワガタ等のメンバー。夕方になると、ハイケボタルが飛び、蚊捕りヤンマという、蚊を食べるトンボが家の中にも飛び込んできました。田んぼでは夜、クイナという

鳥が鳴き、キツネの話も聞きました。

アオバズクのように、今も変わらず渡って来るものもいますが、思い出の中だけになったものも多いです。地球全体を考えれば、1日に100種の生き物が絶滅している時代。あの時、いきいきと活動していたかれらの姿を忘れてしまわないためにはどうしたらいいのか、考えてしまう夏の終わりです。